

## 現地見学会の解説

平成 25 年 10 月 17 日、尾花沢市 1099 林班の分収造林跡地において、スギコンテナ苗を使った植付の現地見学会がありました。前日が開催予定日でしたが、台風で延期となったため、当初参加予定だった民間事業者や地元林研グループは参加を見送り、当日は森林農地整備センター、山形森林管理署最上支署職員及び署職員の参加となりました。

まず島津署長よりコンテナ苗利用による造林コストの削減について概要を述べた後、山田地域林政調整官より伐採搬出コストの削減と同時に育林の低コスト化を進める必要性や方法、普通苗とコンテナ苗の比較という視点から説明がありました。

また、最上支署の寺田総括森林整備官からは同支署で昨年秋に行ったコンテナ苗植栽の結果について紹介がありました。

植付作業の請負事業者である北村山森林組合からは、実際に作業を行う立場から、コンテナ苗を使用することによって普通苗より短時間かつ効率的に行うことができるそうだという感想が述べられました。

コンテナ苗はポットの部分に椰子材を使って軽量化し、段ボールに梱包された状態で現地まで機械で運搬されるため、作業が軽減されております。

伐採と植栽を同時に行う一貫作業システムを行えばさらに育林の低コスト化を進めることができるようです。

一方尾花沢市のような豪雪地域では、秋植えで植栽されたコンテナ苗が上手く活着しなかったり雪折れで枯れたり、融雪の際幹が引っ張られて損傷することにより成長を阻まれる懸念が考えられます。

今後は、植栽後の生育状況について適宜調査を行い、民有林へ普及させるためのデータの蓄積を進め低コスト化を進めていきたいと思っております。

山形森林管理署 塚本 愛



コンテナ苗の生産風景（蔵王町）



植栽現場にて説明